

福島原発事故被災地視察記録

いわき市から南相馬市まで

2014 年 12 月 11 日（金）

福島原発行動隊は、2014 年 12 月 12-13 日、福島原発事故被災地の視察を行いました。その行程は以下の通りです。

12 月 12 日（金）

いわき市発

広野町 避難解除になった町の現在、廃炉作業員の生活の拠点となった町の姿を視察。

楢葉町 除染状況を視察

富岡町 避難指示解除準備区域と帰還困難区域が混在している状況の視察。津波被害の状況視察。

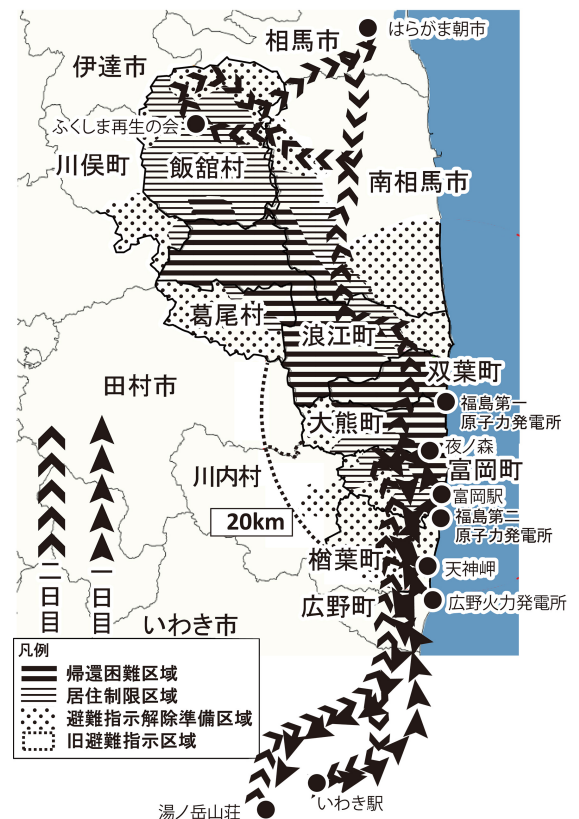
大熊町 帰還困難区域の現在と、中間貯蔵施設候補地の視察

双葉町 帰還困難区域の現状を視察

浪江町 避難指示解除準備区域と帰還困難区域が鋼材する地区の視察

南相馬市 避難指示解除準備区域が市内にある状況の視察

湯の岳山荘泊 参加者交流



12 月 13 日（土）

湯の岳山荘発

飯舘村 ふくしま再生の会による除染、農業再生などの活動を視察

相馬市 報徳庵で昼食をいただきながら、水産業の現状と復興への取り組みについてお話を伺う。

いわき市着 解散

以下は 1 日目（12 日）の視察の際に現地案内役を務めていただいた吉川彰浩氏（アプリシエイト・フクシマ・ワーカーズ代表）による説明を記録したものです。

今、皆さんがいる場所は通常、原発作業員の方が通勤で乗るバスが止まる場所です。毎朝毎晩、（作業員の方は）私たちが今乗っているバスより、二回りほど大きなバスで出勤します。

この場所はいわき市の駅前の中心部でパッと見でも、とても住みやすそうですね。人もいっぱいいて。ここから北に進むにつれて、山並み（阿武隈高地）がどんどん6号線に近づいてきます。ということは人々が住める平地が減っていくことです。この様子を感じながら見てください。右手には太平洋が見えてきます。

漠然と見ているとさらっと通り過ぎてしまいますが、地形的なことも考えながら見ていただきたいと思います。

●原発作業員の拠点いわき市

「いわき市」は原発作業員の方がおもに拠点にされている都市です。言うまでもなく住みやすいからです。ここから約40キロ先に「福島第一原発」があります。なぜ、そんなところにあるのだろうか、と考えながら見ていくと、北に行けば行くほど住みやすさが喪失していくことがわかります。スーパー、ホームセンター、病院などふだん皆さんが日常的にあるものが、ない。どんどん少なくなっていくのを注意しながら、見てください。

モニタリングはなさってけっこうです。けれども、まわりの方に配慮なさっていただきたいと思います。特にこれから行く富岡町の中には、まだ崩壊の危険性が残っているところがありますから、そうしたところには立ち入って測ることはご遠慮いただきたいと思います。

では、これから「広野町」に向かいます。現在走っている道路が国道6号線です。日本橋から宮城県仙台市まで抜ける国道です。今、片道2車線になっていますが、この先（いわき市四ツ倉）1車線になります。日中で車の通りが比較的少ないですが、朝5～6時ぐらいから原発作業に行かれる方、除染作業に行かれる方など復興作業に行かれる方々の車輛で渋滞します。今日の夕方、帰路にその様子が見られると思います。

福島第一原発に行くのには、この6号線を使わなくては行けません。福島県の沿岸部は道路が少ないのです。震災の時に避難状況が混乱してしまったのは、生活道路が少ないことが原因のひとつと考えられます。

作業員の方々がみんなここを通ると、前に進めなくなってしまう。実は6号線のほかにもう2本、北上できる主要道路があります。ひとつは常磐高速道。通勤で高速道路を使うなんて、経済的に本来ありえないことです。月に7～8万円の出費になり、働く人にとっては大きな負担ですから。しかし現在は、原発にかかわる方は国の補助が出て、申請書を提出すれば一応、高速道路使用料は無料になっています。これがいつまで続くか、働く方にとってはかなり関心の強いことです。

6号線、高速道路のほかに県道35号線があります。これは山の中を走っている道路です。今は檜葉町まで舗装が終わっています。富岡町から北に向かってはまだ舗装は完了していません。

富岡町の北に大熊町があり、そこに行くには6号線のほうが使い勝手がいいです。常磐高速道は強風になると通行止めになります。

●住宅不足から、いわきは不動産が高騰

いわき市全体の話ですが、2年前は空いている賃貸物件はほとんどありませんでした。というのは、避難生活をされる方、除染や廃炉作業をする方で賃貸住宅のほとんど埋まってしまったからです。いわき市にもともと住んでいて、高校を卒業し就職して実家から離れようと思っている人、結婚して夫婦で新婚生活をおくりたい人など、当たり前前の生活を望んでいた若者の希望がなかなか叶わない現実が、1年ほど前ですが起こっていました。その状況がなにを生み出したかというと住宅（不動産、賃貸物件）の高騰です。いわき市はバブルのときよりも高騰してしまった、と言う人もいます。震災によって土地の価格が下がってしまっても仕方がないのですが、いわき市については建設ラッシュになっています。賃貸がだめなら、家を建てようとする人が増えているのです。この地でよくみる広さの一軒家を建てようと思うと、いわき市で今5000万円は覚悟しなければなりません。私の友人は1億円かけて新築しました。

35と書いてありますね。「県道いわき浪江線」です。

少ししゃべっているあいだに、風景が変わってきたと思います。6号線から左右に別れて田んぼが増えてきます。そしてこれから海に向かって斜めに道路がまがります。

この先、海が近くなってきます。なんでそんなことを申し上げるかといいますと実は、このローソンから先は津波の浸水区域になっています。津波の被災地域なのです。被災地域として双葉郡のことばかりが注目されますが、いわき市も津波の被害を大きく受けたところなのです。

右手に見える「ワークマン」さん、ここから7000枚の作業服を購入し、作業員の方に使っていただきました。

「四ツ倉タイヤ」さんのご主人に当時のことを伺いましたが、窓枠の下の部分まで浸水されたそうです。右手に見えるホームセンターは壊滅的なダメージを受けたほどで、現在は作り直した建物です。

左側を見てみますと、整地し、新しく立て直した家が見られます。その反面、古い家屋も見られますが、津波というのは均等に被害を及ぼすのではなく、数十メートル離れただけで被害の大きさが異なるのです。この地域は浄化槽の被害を受け、家は無事でも浄化槽の修理に数百万の費用がかかったと言われています。

右手、漁港になっています。「道の駅四ツ倉港」です。ここは完全に壊れてしまい震災後に新しく建てられたものです。当時、この道に来ると港から流された漁船が6号線に転がっているような状況でした。今は跡形もありません。いわき市民の尽力で、震災の面影がなくなるほどきれいになりました。いわき市も復興は遅れていますけど、目に見えて遅れているのがわかるようなものは、徐々になくなってきました。

そうこうしているうちに、一車線入りました。この「蟹洗（かにあらい）温泉」も津波で被害にあわれました。今は通常営業なさっています。

この沿岸部を見ていただきたいですが、福島県の沿岸部には砂浜がほとんどありません。サスペンスドラマで見られるような、切り立った断崖絶壁がいたるところにあります。どの町にも漁港があるとは、誤った認識です。むしろ漁港がない町のほうが多いです。

震災前に閉鎖されてしまいましたが、日本一小さい漁港があったのは実は富岡町です。漁船が2隻ぐらいしか停泊できませんでした。

こちら震災前は海水浴場でした。小さなお子さんを連れた家族連れの様がよく見られました。左側を見て頂くと、観光地の面影を残した喫茶店や食堂が見られます。

まだ防潮堤の整備もなかなか進まない状況です。

遠く離れた山並みがいつの間にかすぐ近くまで寄ってきました。

左を走っている列車は常磐線です。現在避難区域になっている楢葉町まで開通しています。こちら高さがありましたので常磐線自体は大きな被害はありませんでした。

避難区域が設定された当時、最北端の町はこのいわき市・久之浜町（ひさのはままち）でした。ここは漁港がある町で、あまり注目されていませんが甚大な被害にあった町です。

震災後しばらく、この国道6号線から右側は居住されていた方以外は立ち入りが禁止されていました。

避難区域が設定された当初、私の友人を含め原発の復興に取り組む人たちが多く住みました。というのは、ここが原発にいちばん近かったのです。

左に見える「セブンイレブン」、震災前はほんとうに小さなセブンイレブンだったのですが、震災後にたくさんの方が利用するようになってリニューアルされました。私たちにとってあのセブンイレブンがなかったら、食べ物も飲み物も手に入りませんでした。避難区域にはその頃お店がありませんでしたから、いつもあそこでお弁当を買っていました。

右側にあまりこの地域にふさわしくない建物があります。これは復興住宅です。震災後3年9ヵ月たちましたが、まだこのように完成途中です。ここ半年ぐらい、私は作っている状態を見ていますが、なかなか進まないです。手が回らない感じがしています。

今、「久之浜町」の中心部を通り過ぎました。

また風景が変わってきましたね。山の中を走っている雰囲気です。

ここから先の地域は、山を切り開いて道路を作ったような感じですね。

私は2年前から、ここから先の地域の復興にかかわってきていますが、震災、放射能がなかったとしても、どうやって町おこしをしようかと考えていました。以前の講演会でみなさんにお伝えしましたが、作業をする人たちが住む場所がありません。そもそも家屋を建てられる場所がないのが見て取れると思います。

皆さんはあまり不思議に思われないかもしれませんが、ほんの数ヵ月前は反対車線から来る車は基本的に、原発作業の方か、除染の方か、双葉郡から避難されてきてお掃除などで一時的に帰還されている限られた人々でした。

左手にあった常磐線が右手に変わりました。

すれ違う車のフロントのガラス部分を注目してください。なにやら白い紙が貼られていますね。こうした車は除染など原発作業にかかわる人が乗っています。本来、避難区域は誰でも行っている場所ではありません。盗難もありますから。避難区域に入り作業する車両には、この証明書が義務付けられています。

ここから双葉郡に入ります。

●原発作業員を支える広野町。避難解除でも住民の帰還は約3割

以前お伝えした原発作業員の方を支える「広野町」はここから始まります。飲食店、商業施設に目を配りながら乗ってください。

左側、右側ラブホテルです。今は作業員の方の宿舎に変わりました。ラブホテルも使わなくてはならないほど、作業員の方が寝泊まりできるところはないのです。

広野町は震災前の人口は5000人ほどでした。ほんとうに小さな田舎町でした。現在は3割程度の方が戻って1500～2000人の方が帰還されているようです。作業員の方が現在3000人ほどいらっしゃるそうです。

車の往来もありますから、ここが避難区域だったとは伝わりにくいかもしれません。

実際は3割の方しかいらっしやらないのです。この目に見える家も3割しか使われていないのです。

みなさんが問題視している「働く人々を支える町」がこのような姿です。欧米でしたら労働者が集まる町は、キンキラキンに輝いているのですが、広野町は見た目には震災前と変わらない、住民にとっては静かで落ち着いた、住みやすい町なのです。

次の交差点の左側に「広野町役場」があります。すでに報道されましたが広野町にスーパーの「イオン」ができることになりました。そのイオンの候補地は役場前の空き地です。

今、6号線から左に入って広野町商店街に向かいます。

●東京の電力を支えるために夏には稼働した「広野火力発電所」

「火力発電所」は原発以上にボロボロでしたが、震災のあった年の夏には稼働しました。火力発電所は当時、避難区域でした。避難区域の中、東京の電気を支えるために、福島県民の方々、作業員の方々、家族の方々は放射能不安にさらされながら尽力したわけです。

ここが商店街です。今、右手にスーパーがありますね。これは震災前からあった個人スーパーです。現在、原発作業員の方の事務所に変わっています。避難になった経緯で撤退されました。そこを原発作業員の方がお借りしている状態です。奪ったわけではありません。

町に一軒しかないスーパーでしたから、それがなくなり今はこの地域にスーパーはありません。

右手に見える常磐線から東側が、津波の被害区域です。現在、町の復興計画は駅の東側、津波の被害にあった地域を全部買い取って、新たに整地して防潮堤を作り、そこに新しい町を作るというものです。

さきほどからチラチラと煙突が見えると思いますが、それが広野火力発電所です。発電所があるというと、すごい雇用が生まれていると想像できますが、火力発電所は原子力発電所と違って、それほど雇用を生みません。火力発電所のあった地域みんながそこで働けるわけではありません。一部の方だけです。

今ずっと通ってきて、皆さん簡易的な建物が多いことに気づかれましたか？

除染や原発作業をするために住む建物で、長く生活できるような環境ではないですね。通り過ぎてしまいましたが、民宿がありました。その民宿はいち早く作業員の方を受け入れてくれました。現在アパートも建てられています。そうしたところに住める作業員は恵まれている方々です。

●Jビレッジ。作業員はここから原発へ。一般は立入不可

右手に見えるのが「二ツ沼総合公園」です。こちら双葉郡の方々の憩い場だったのですが、今年の10月まで原発作業員の方々の宿舎と事務所がありました。先月から取り壊しが行われまして、来年の5月には終了する予定です。

今真正面に見えるのが「Jビレッジです」。もともとはサッカーの総合練習場だったのですが、「楡葉町」と「広野町」にまたがったトレーニングセンターでした。Jビレッジ本館の住所は楡葉町です。ということは、楡葉町は現在避難区域ですから基本的に宅配物は届きません。そういった場所に原発作業員の方の拠点があるわけです。ここから作業員の方のほとんどが大型バスに乗り換えて、福島第一、第二原発に通われます。一般の方は今、立ち入ることはできません。

●全区域の帰還を目指し除染が進む避難指示解除準備区域の双葉郡・楡葉町

避難区域に入りました。ここから先は、日中に入ることは許可されても、宿泊は認められない地域です。人が住んでいない地域ですね。でもそうは思えないほど車の出入りがあります。これらはみんな復興のために働いていらっしゃる方です。

左手「道の駅」ですが、ここは今臨時の警察署になっています。双葉郡の警察署は富岡町にありました。しかし現在使われていません。

楡葉町は避難指示解除準備地域です。ここ楡葉町は人を帰す、帰れるようにする取り組みが行われています。

国道6号線の右側を見てください。先ほどまでなかった除染の仮置き場がたくさん見られます（約27分）。黒い袋がたくさん並んでいる。もしくは緑のカバーがかかった仮置き場が目に入ってきます。海に近いほうをよく見てください。

今、除染が急ピッチで進んでいます。除染は人が普段立ち入る可能性がある場所が目安です。だから、今見える山の中の除染はしません。

楡葉町では「セブンイレブン」さんが経営されています。左手前に見えますね。これは非常に重要なお店です。ここまで来ていわき市まで戻ってご飯を食べるなんてことはできません。コンビニがなかったら働く方はご飯も食べられません、飲み物も飲めません。

避難している私のような人間から言うと、トイレ休憩することことういった店がないと困ってしまうのですね。

右手に見えるのが仮置き場です。緑のカバーがかかっています。切って黒い袋に入れてありますから腐食してしまいます。それを防ぐために緑色のカバーをかけています。そして緑色の袋から細い筒が出て

いますが、可燃性のガスを抜くためのものです。

●広範囲な仮置き場が眼下に広がる檜葉町「天神岬スポーツ公園」へ

これから「天神岬スポーツ公園」に行っていただきます。スポーツ公園は高台にありまして、町の全景がみられる場所です。今、皆さんが目にした除染の仮置き場が、実は広範囲にあることがわかんと思います。

これはふるさと自慢ですが、ここには日本一たくさんのサケが上がる川があります。「木戸川（きどがわ）」といいます。獲ろうと思えば素手でも獲れます。震災前は切符を買い許可を得ないと、釣りはできませんでした。

皆さん、右手側ご覧ください。すごい除染の仮置き場になっていますね。

（下車し、天神岬スポーツ公園へ）

今日は皆さんいいタイミングで来ました。きれいに草が刈り取られていますが、生えてきたらまた刈らなくてはいけないのです。

ここは檜葉町の方がたくさんいらっしゃるところです。これは桜の木です。4月には芸能人の方も呼んでイベントも行われていました。

（下を見ながら）だいぶ、きれいに整理されてきましたね。仮置き場として除染されたものが並んでいます（右写真参照）。私は来るたびに増えていると実感します。もともとは田んぼでした。ここは海の近くで、津波にあわれた地域です。放射能がなくても塩害で田んぼは使えなくなりました。檜葉町の復興を進めるために、この地域の方々が泣く泣く環境省に土地をお貸ししました。

ここはかなり管理された仮置き場ですね。飯館村や川俣町のほうに行かれた人は、田んぼや道路のわきに除染された袋が、無造作に積み上げられたのを見たと思います。

私はこの姿をみて、何かひどい状況になっているというよりは、復興は進められていると解釈します。これぐらいいかけないと私たちの生活権は取り返せないと思います。



飯館村や川俣町は除染したものを保管する場所がないのです。山地が多いですから。

ここが「木戸川」です。現在試験捕獲しているだけですが、1キロ当たり50ベクレル未満（不検出）ということが確認できていますが、避難区域の品を流通できませんから、消費者の口には入っていません。

檜葉町は帰還準備区域ですから、帰還するための準備をしているわけです。サケは檜葉にとって主要な産業のひとつですから、人々が帰還してからでは遅いのですよね。

あちらに見えるのが「火力発電所」です（右下写真参照）。よく見えますね。数メートルの津波がきて、どれだけ被害にあったか想像がつかますよね。あそこはおそらく震災後いちばん力が入っていた場所です。巨大な自衛隊のヘリコプターが物資を運んでいました。いっさい世間から注目されませんでした、大変な状況でした。放射能の知識はない、防御服もマスクもない。その中で作業でしたから。

除染について、私たちは町からも国からも明確な指導を受けていません。生活に適した環境を部分的に作り上げているだけです。それ以外の区域に立ち入ることは自己責任です。

たとえば、子供たちに「ここは除染が終わったから遊んでいい、こっちはダメ」と言ってもききません。また、皆さんのようなシニアの方は

このシーズンなら「俺はもう年だから大丈夫」と言って、山菜取りに山に入る方が少なくありません。ちょっと山に入ればマツタケが採れますから。

一時期、飯館村のほうで内部被ばくの数値がとて高いおじいちゃんがありました。そのおじいちゃん「なんのことはない。今まで通り山菜採って食べていた」と。

放射能の危険があるところに入る、入らないは、なんの物理的規制ありませんから。正しく理解しないと痛い目をみるのは私たちです。私の親も帰還困難地域に一時立ち寄りで行きますが、防御服も着ませんしマスクもしません。どんどんおろそかになってします。痛くもかゆくもありませんからね。ここにいても。震災前の発電所ならこのように足を入れて、そのまま出ようとしたら警報が鳴って出られませんから。今皆さん、みんな放射能まみれですよ。でもスクリーニングの義務化もこの地域にはありません。短時間の滞在なら健康に被害はありません。でもなんかモヤモヤするでしょ？ モヤモヤへっと。これが私たちの日常なのです。

ここにきていただいた理由はもうひとつあるのです。



これ遺跡です（次ページ写真参照）。2000 年ぐらい前の人たちのお墓です。災害は私たちの現在の生活が失われただけではなく、歴史もなくなってしまうのです。ここは公園ですからきれいに整備してもらえますが、これから先の区域では神社仏閣歴史的な建物はそのままになっています。文化庁のほうでどうにかしようと取り組んでいらっしゃるんですが……。災害は文化的なものまでなくなってしまうことを持ち帰ってください。

古の墓石がいっぱい並んでいますね。ここは 2000 年前から住みやすかったのですね、きっと。

高いところから海を見ます。沿岸部分を見てみましょう。断崖絶壁が続きますね。そしてところどころに低くなる場所があります。そういうところに富岡町、浪江町は小さな漁港を作ったのです。双葉、大熊に漁港がないのは漁港ができるほどのスペースがないのです。



中間貯蔵施設ができない限り、今見てきたような仮置き場の姿がなくなることはないでしょうね。

ここに帰ってきたら子供の教育どうしよう。皆さんは老後の生活を楽しむとはいえ、放射能がなくても、ここに住むのは抵抗があると思います。どうやって生活しようかな？ 慣れるのに何年もかかりますよ。

昼食ですが、皆さんの要望にお応えするのは難しいです。数人なら飲食店に入りますが、作業員の方がたくさんいらっしゃいますから、この人数で食堂に入るのは無理です。コンビニで買っていただくしかありませんが、コンビニも通り過ぎてしまいましたので、浪江町までは我慢してください。

むやみやたらに建物に近づかないでください。

避難指示解除準備区域に設定されまして、今、除染が行われています。

楡葉町はほぼ全域、全員が帰れるという前提のもとに今、除染が進められています。これから行く富岡町（とみおかまち）は、状況が変わります。帰れる地区と帰れないであろう地区が混在した町です。その違いを感じながら見ていただければと思います。

●福島第一原発を中心に外側から内側に除染。富岡町は楡葉町、浪江町とは違う姿に

現在の除染は福島第一原発を中心において、外側から中心に向かって作業が進められています。とい

うことは福島第一原発に近づくにつれて、除染も手つかず、震災直後の状況が残る町並みへと変わっていきます。特に田んぼを見て頂くとわかりやすいです。檜葉町は除染が進んでいますから、雑草が刈り取られています。

富岡町に入ってから浪江町に行くまでは、そこが田んぼだったことがわからない。4年近く放置された荒れた姿になっています。

地震からの復興といいますか、建物家屋の被災状況がはっきりと見てとれるほど、復興が進んでいません。檜葉町も以前は瓦が落ちた家がたくさんありましたが、帰還することが前提になりましたから、屋根瓦の修理がいたるところで行われました。屋根にブルーシートがかけられています。避難区域になりますとホワイトシートがかけられています。この違いには意味がありまして、ホワイトシートがかけられた屋根は、屋根の修理の専門の方がかけたのではなくて、東京電力ならびにその関連の方が補修してかけたものです。今は風に飛ばされている状況が散見されます。

今、目の前にあるのが「常磐線」です。雑草も生えていません。きれいな線路が見てとれますね。富岡町から北はまだ復旧が手つかずの状態です。というのも地震と津波の被害が大きくて手が付けられないのです。また、放射能がありますから JR 東日本の労働組合が避難区域の復旧は行えませんということで、まだ行われていません。

線路が見えないほど雑草が生い茂っているのが見られると思います。

右手前の大きな建物が「檜葉町役場」になります。仮設の商店が建てられていますね。日中はここでも食事がとれるようになりました。皆さん、このあとも何度も立ち寄られるとは思いますが、その際はぜひ顔を出していただけたらと思います。こちら右側の商店ですね。「食べるも買うもここから商店」さんです。

右手ですね。地震当時の家屋があります。今見ると、たいした地震ではなかったのではないかと、という人がいますが、そんなことはありません。家がメチャメチャになってしまうほどでしたから。

●帰還しても住みやすさが戻るには時間がかかるだろう（檜葉町）

檜葉町は人気のあった町です。子育て支援があったりして。天神岬に行く途中に新しい家屋が沢山あったと思いますが、若い人が建てられた家が多いのです。自然も豊かです。これから川を渡りますが、この「井出川」はアユが獲れるのです。アナゴも獲ったことがあります。

檜葉町は広野町に比べてとても広いです。広いのですが、見ての通り主だった商店は広野町と大差ありません。一方、これから行く富岡町は風景がガラッと変わります。ドラッグストアー、スーパー、銀行、飲食店などいろいろあります。富岡町に買い物は依存していました。

檜葉町の駅周辺に小さなスーパーがありますが、近所の方が利用するような店です。大型スーパーが

あるのは富岡町です。

檜葉町の人が帰れることになっても、今まで買い物は富岡町に依存していましたから、今後、いわき市に行かなくてはなりません。だから、帰れたとしてもなかなか住みやすさは戻ってきませんね。

●帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域に分かれる富岡町

富岡町に入ります。こちら右側見てください。「福島第二原発」が見えてきます。送電線の向こうに排気棟（煙突ではありません。）が見えます。

福島第二原発には原発作業員の方の事務所があります。実は「福島第一原発」を第二原発が支えていることを覚えておいてください。

今あるこの道路は、震災のときは陥没してなくなっていました。国道6号線は震災直後、ここで寸断されてしまいました。ですから事故当時、私も復旧にあたっていたのですが、南から復旧に使うための資材を運ぶことはかなり困難な作業になっていました。

このバスの後ろ数十メートル、2車線はすっかりなくなっていました。

ここを右に曲がりますと福島第二原発です。この橋の下にあるのが常磐線です。まったく檜葉町と違いますね。

右前、奥にクレーンが見えてきますが、大型焼却炉が今建設中です。震災で発生した廃棄物の引き取り手がありませんから、ようやくですね、自分たちの町で焼却するめどがたってきたところです。

これから「富岡駅前」に向かいますが、なんでこんなひどい状況をほったらかしにしておくのだ、とよく皆さんおっしゃいます。使えない家屋など撤去したいのですが、引き取ってくれるところがないのです。片付けられないという実情があります。

どうですか？ 道路の状況もよく見ると（檜葉町）と違いますね。

これから富岡駅前を通っていただいたあと、「夜ノ森公園（よのもりこうえん）」に向かいますが、途中道がまだ舗装されていません。応急処置のままです。富岡町に入るとまだ道路も直っていない状況です。

先ほどガソリンスタンドが開いていたのがわかりましたか？ 日中に限って開業するのが認められています。ガソリンスタンドではありません。飲食店でもかまわない。日中に限り除染したところから、商いを行う方が納得すれば開業をしてもかまわないのです。

あれは一応仮設焼却炉です。仮設というよりは本設に近いと思いますが、一応仮設です。

この地域で仕事をされているのは、ガソリンスタンドの方、除染作業の方です。除染作業の方の事務所もあります。

この崩れた建物は有名な老舗うなぎ屋の「押田」さんです。

富岡町は放射能瓦礫の受け入れの問題もありまして、なかなか手つかずの状況が続いています。

道の舗装がされていないのでバスがゆれます。気を付けてください。

右手にいらっしゃるのは除染作業のみなさんです。原発作業の方との見分け方はですね。除染される方は必ず腕章をつけています。こちらも当然、人が住んでいない地域ですから腕章は身分証明の代わりですね。

私は浪江町に住んでいたのですが、浪江町も富岡町と同じようにこのような震災時のままの状況が見られます。ですが、放射能汚染の度合いが違います、浪江と富岡では。

私のいた浪江町、沿岸部では放射エネルギーが低いのでドンドン瓦礫が撤去されています。今見たような津波被害にあった車が放置してあることはありません。皆さんにはかなりショッキングな姿に映るでしょうね。

私は震災当時福島第二原発にいまして、翌日ここに来ています。直後の状況を知っている人間としては、今はとてもきれいになったと感じられます。

今車が走っている道路は、震災直後は濡れた土で覆われているような状況で、被災された家屋や家財が混ざった汚泥が溜まったような状態だったのです。

私たちのようにここに来る方がたいへん多いので、ロープが張られるようになりました。家の中に入ってしまう人がいるのです。人の家に土足で入る人たちは。何度注意しても止めてくれないので仕方なく……。それでなくても、私たちが見に来るだけで辛い思いをされている人がいることを覚えておいてください。

●常磐線富岡駅前

右前にあります電柱にカメラがついています。これは監視カメラではなくて富岡町のホームページを開くとわかりますが、富岡町に住んでいた人たちがこの町の状況がいつでもわかるように、町がつけてくれたものです。ですから皆さん、今一生懸命に写真や動画を撮られていると思いますが、ホームページを見ればリアルタイムで町の様子がわかります。今町民の方がリアルタイムで皆さんを見ていると思

ったほうがいいです。

常磐高速道はドンドン復旧のめどがたってきましたが、常磐線についてはなかなか進めない状況にあります。富岡駅の手前、竜田駅までは常磐線は通っています。皆さん、いわき駅からこのひとつ手前までは、電車で来られます。ただし、ここから先、富岡駅はこの状態ですし(写真右上参照)、大熊と双葉のあいだの橋は滑落したままです。夜の森、大野（在大熊町）、双葉、浪江など駅自体は無事なのですが、そのあいだの線路が復旧できません。これを復旧するには除染と同じように放射線作業です。そしてこれを行うのはJRの方ですから、会社側としては早く復旧したいけど、労働者の考えとしてはやれと言われてできるものではない、ということです。非常に複雑ですね。



あちらに慰霊碑が見えます（写真右下参照）。

富岡の駅前は飲み屋さんもたくさんありました。私にとってほんとうに楽しい思い出しかないのです。

除染の袋で見えなくなっていますが、この先に「富岡漁港」がありました。

ここは特急電車が止まるような駅だったのです。地域開発を進めているときに震災にあいました。富岡漁港がリニューアルされて、大きな海水浴場の計画があったのです。とても住みやすい町でしたから。

この町が持っているパワーってほんとうにすごいのです。いわきからここまでの国道沿いに、総合病院がないことに気が付きましたか？ 富岡町には総合病院があるのです。



本来ここは居住制限で除染がなかなか進みませんが、住民の皆さん思い入れがあるので来てしまうのです。それで重点的に除染してあります。だからご皆さんをご案内できるのです。除染の作業されている方はマスクしていますね。

ここはツツジの見どころでした。

震災直後にここに来たとき、60 歳ぐらいの男性の方がひとり、私がいくら声をかけても反応しないで海の方に行ってしまいました。「ダメだ」と言っても、全然言うことを聞いてくれませんでした。消防の方がいらしたので、結局その方をお願いしましたが……。

よく覚えていますよ。このレストランで歓迎会をしてもらいました。

皆さんみたいにお勉強するために来ている方々だけではないです。現在でも盗難届が出ています。泥棒が入ってきます。だからカメラは防犯の目的もあるのです。

私の親も言っていますが、へたに家にカギをかけてしまうとカギを壊されてしまうから、カギはかけないという方はいます。私もアパートのカギは開けっ放しにしていました。

今日はお連れできませんが、実はこの被災地域に一台のメチャメチャになったパトカーが置いてあります。津波の避難誘導中に被害にあわれて、乗っていた警察官の方は亡くなられています。富岡町ではそれを残すということになりました。

富岡町はこの 6 号線の近くまで、海拔がすごく低い地域なのです。ですから富岡町は津波の被害範囲が広いですね。

この真正面が漁港でした。これが地域開発の名残です。ここに新しい住宅街を作ろうということで、これは新しいアパートと戸建てです。

ですから富岡町のこの地域の方は、たとえ帰れたとしてもこの状況から作っていかなくてはなりません。放射能とはまた違った意味で帰れないのです。

●富岡町夜の森（よのもり）地区。帰還困難区域と居住制限区域が通り一つ隔てて混在

これから国道 6 号線をまたいで「夜の森公園」のほうに行きますが、右手に「福島第二原発」の「PR 館（正式名：福島第二原子力発電所エネルギー館）」が見えます。モダンな感じの建物ですね。

奥にあるのが先ほどご案内した双葉郡の警察署です。

宮崎駿さんは反原発ですね。実はここ原発の PR 館に『魔女の宅急便』のパン屋さんがいます。ちゃんとスタジオジブリの許可をとって使っていました。そして毎週子どもたちが楽しみに来てくれていたのです。とても多くの子どもたちが、ほんとうに楽しみにしていたのですよ。あそこに行けばジブリのものが見られる、買えるって。

ここが大型スーパー「富岡ショッピングプラザ」です。マクドナルド、ケンタッキーがありますね。

現在、ここは駐車場として利用されています。

ここを直進しますが、「総合病院（今村病院）」が出てきます。いわき市を通り過ぎると大きな病院はここがいちばん近いです。

ここをまっすぐ行くとゴルフ場があります。この地域の方は若い人でもゴルフをします。平日だと 3000 円ぐらいで出来ましたから。

常磐高速道は埼玉県の三郷からここ富岡インターチェンジまで現在通行可能です。来年の 3 月には全線開通ということになっています。おそらくそうなるでしょう。

「夜の森公園」のほうになぜ行くのかと申しますと、名所だから行くのではなくて実は帰還困難区域と居住制限区域、帰れる区域と帰れない区域の境目を見ていただこうと思うからです。

ここは桜の名所なのです。先日ウェディングドレスを着て記念撮影されたカップルがいました。

ここをUターンしていただきますが、この通り左側が帰還困難地域です。右側が居住制限区域です。道路で区切られてしまうのです。左側は除染しません。

では一度降ります。（富岡町・夜の森地域 / 夜ノ森公園近く）

皆さんちょっと集まってもらっていいですか？ 先ほどのところと違って線量もありますから、速やかにお願いします。

この道路を挟んでこちら側が帰還困難で、こちら側は帰れる。これはあくまでも国の方針、決定であります。今大きな問題になっているのは、こちら側の方（帰宅困難区域）は補償が手厚いのです、賠償の面でも。実際、帰還困難区域の方には追加賠償として一人当たり 700 万円、この間支払われました。



右側が居住制限区域。除染が行われ、フレコンバッグが並んでいる。左側が帰還困難区域。建物の入り口や横道はガードレールでブロックされている。

たとえば 4 人家族だったらどうでしょう。2800 万円です。右側の方と左側の方、友だちだったかも知れません。左側の方は約 3000 万円を手にして、新しく生活する基盤があるかも知れません。しかし、右側の方は帰ることを前提とされ

ていて、どっちつかずのまま、賠償も生活費に充てるしかない状況もあるのです。このように、お隣さん、近所同士がある日突然「おまえらは帰れる、おまえらは帰れない」と分けられてしまったのです。

お金で分断されたのではないのですね。お金の話はあとから来たものですから。待遇が違う、境遇が違う、そういう状況を住民の合意を得ずに、勝手に決められてしまった。本来ならどちらかに寄り添うはずなのです、こういう場合。

大熊町、双葉町では線量の低い地域があります。しかし全員が帰還困難地域にしました。そういう行政と、少しでも帰れる住民を増やすのだという、ある種帰りたい人たちに寄り添った結果がこういう悲劇を生んでしまった。おそらくこちらの居住制限区域の方も帰らないでしょう。だって帰れないところが隣にあるのに、こんな小さな子ども連れて帰れますか？ 学校はそこにあって、公園もあり、桜の名所があり、スーパーもある。本来住みやすいところなのです。だけど、それはもう過去の話。



帰還困難区域の様子。雑草が生い茂っている。

●帰還困難区域の除染はしない

いま除染の方が一生懸命作業してくださっていますが、ここの町民の方は複雑な気持ちだと思います。なかにはいらっしゃいます。「除染なんてしないでくれ。俺たち帰れちゃうじゃないか」と言う人が。

私の友人のひとりが、帰還困難区域に住んでいます。彼のお父さん、お母さんはこちらの居住制限区域に住んでいます。父ちゃん、母ちゃんが老後になって、足が不自由になったら支えてあげようと思って、わざわざここに住んだのです。でも彼は帰れないのです。

だから賠償金が違うとか、それだけで決してみてもほしくないのです。実際に起きてしまっている家族の分断、地域コミュニケーションの分断、そして帰還困難区域に隣接しているところは、実際には帰れないという現実を知っていただきたいです。

帰還困難区域はめどがたっていないので除染はしません、とはっきり言われています。県、国、町の行政が一体となって決めました。

場所や状況によっては、土をこんなにきれいに除染してくれても、放射能が飛んでくる恐れがありますか。

桜のシーズンだとここに 50 万人ぐらい来るのですよ。

(バス出発)

富岡町に住まわれた方は、第一原発にも第二原発にも通いやすかったのですね。私の先輩もこのすぐ近くに住んでいました。

原発で働く方、廃炉に係わる方を支えようと思うなら、この富岡町規模の施設をまた新たに作らなければなりません。

皆さんよく間違えますが、福島県内に「〇〇ちょう」という地名は存在しません。「町」はすべて「まち」と読みます。

富岡町は商業的な町と勘違いする方がいますが、実は畜産業がさかんな地域です。山の方に行きますと肉牛や乳牛農家。沿岸地域では養豚や養鶏農家さんです。

一時期、避難区域の中は牛がたくさん徘徊していると報道されました。確かに一時期そういうことがありました。でも、今はそんなことはありません。復興を進めるために畜産農家さんは、泣く泣く殺処分をしたのです。牛などが荒らしまわっている町だと、いまだに言う方がいらっしゃいますけども、みんなたいへんな思いで苦渋の選択をしたのです。

今日は一頭も見えていませんよね。野良犬までいなくなってしまったのですから。震災直後に比べて、変わったこともきちんと報道してほしいですね。

以前はすぐその川に、野生化した牛がたくさんいましたが、全部保護しました。動物の保護は、この地域にまだまだ一般の人が入れなかったのも、原発作業員でやりました。田んぼの中に檻を作って、持ち主と思われる方に了承を取りに回って、(殺処分という)対策をとったのです。

ちょうど今右手に「今村病院」が見えます。

国道6号線に戻ってきました。ここから南相馬市の小高(おだか)地区までまっすぐに進みます。

今国道6号線は通行可能になったのですが、停車をすることも窓を開けることも許されていないのですが、このことはあまり浸透してないようですね。

この先から帰還困難区域に入ります。除染をしていない区域です。この先に交差点がありますが、今年の9月16日以前は検問がありました。今もその名残がありまして、警察の方が立っています。避難区域では二輪車の走行は今でも禁止されています。

この6号線沿いをよく見ると重石のついたガードレールが続いていますね。ここは以前ですと私たち

のような避難生活をしている者は、許可証を持って立ち入ることができました。今は人が入れないようにバリケードがひかれています。これは浪江町まで続きます。

こちらはまだ震災当時の状況が残ってしまっていますね。トヨタさん、シマムラさん……。

右側に除染の仮置き場が作られていますね。ほんとうに避難区域の現状は1ヵ月もするとガラッと変わります。

今、左側から車が6号線に出てくるのですが、ここまで常磐道がつながっています。帰りは渋滞に巻き込まれてしまうので、こちら（常磐道）から帰ります。

●福島第一原発まで約2キロ半。中間貯蔵施設予定地の双葉郡・大熊町へ

これから大熊町に入ります。入りました。

福島第二原発のすぐそば、富岡町はあれほど栄えていたのですが、これから通る大熊町、双葉町は非常に田舎です。双葉郡の中でも田舎のほうです。意外じゃないですか？ 原発からこんなに近い町なのに、きわめて田舎であることが。

このバリケードがある右側の家並みを見ていてください。大熊町の小さな、小さな郵便局が出てきます。小さくて、もしかしたら気が付かないかも知れません。大熊町はとても広い面積ですが、この郵便局で象徴されるように（生活・文化環境は）小さな町なのです。

あの山の向こうも大熊町です。

大熊町にはとても重要な設備があります。原発行動隊の方だからお伝えするのですが、富岡町の「今村病院」さんよりも2倍ほど大きい「大野病院（県立）」さんです。というのも、それこそまさに原発が近くにあるからこそこの病院です。原発に非常事態が起きたとき、働く方がけがをしたとき、当然放射能汚染の危険がありますから、そうした方を受け入れる設備が整った病院です。現在は使われていません。

ちょっとパチンコ屋さんが多いのが特徴的ですが（苦笑）。飲食店さんも並んでいます。カラオケをするときは大熊町でします。

ガソリンスタンドさんが開業されています。

原子力発電所のある町の特徴としまして、「オフサイトセンター」があるということがあげられます。原子力事故が発生した時に対応する行政の建物ですね。それは大熊町にも当然あります。ただし、それが事故直後どうだったかと言いますと、実質機能できませんでした。やはりあれだけの過酷事故に耐えられる訓練もできていませんでした。次の信号を左に曲がると「大熊町役場」と隣り合うかたちでその

施設があります。

次の信号を右に曲がると、「福島第一原発」です。目視で見えますね。だいたい直線でここから2キロ半ですね。見えますかねえ？ 大型クレーン、排気棟……。かなり近いところまで、こうやって来られることになりましたね。

皆さんがこうやって目にしている全域が中間貯蔵施設の候補地です。視界に入らない広さですね。6号線から右側全部です。とてつもなく巨大な土地が中間貯蔵施設の候補地になっています。大熊町の住民の方は資料を手にすることができます。当然、住民の方からも反対の意見が出されています。

●中間貯蔵施設の候補地、全域帰宅困難区域の双葉町へ

双葉町に入りました。

福島第一原発の5号機、6号機は双葉町。1～4号機は大熊町に設置されています。

この辺も中間貯蔵施設の候補地です。双葉町と大熊町にまたがった形で、ひじょうに広範囲な土地が放射能廃棄物を保管する設備を作る場所の候補になっています。

双葉町ですが、大熊町よりも商店が少ないです。双葉町の特徴としては、ここに住むほとんどの方が原発関連の企業に勤めているか何らかの形でかかわっています。

私はここに10年住んでいました。

右手に見える大きな建物がこの小さな田舎町の町役場です。ここがメイン通りです。私はあの役場の後ろに住んでいました。

私のじいちゃん、ばあちゃんの家はこのバリケードの向こう側です。私は許可証がないのでじいちゃん、ばあちゃんの家に行けません。家族であってもそこに住んでいなければ、許可をもらわないと入れません。

町ごとに特徴がありますから、皆さん隣接する町に引っ越すのです。私も富岡町に引っ越そうかな、と思っていたところでしたから。

双葉町と大熊町は今、全域帰還困難区域です。

この両方の町に大きな病院がそれぞれ一つずつあります。双葉町に総合病院の双葉厚生病院。大熊町には双葉病院、大野病院です。

この右側は全部田んぼだったのです、震災前は。

浪江町に入りました。ここで帰還困難区域は終わりです。浪江町は富岡町と似たような状況です。帰還困難区域と居住制限区域、避難指示解除準備区域が混在しています。

浪江町の特徴は町民の方が多く暮らす中心部、この6号線沿いですが、ここは非常に線量が低いのです。特にこの6号線の東側の線量はいわき市とほとんど変わりません。私が住んでいたアパートは、今住んでいるいわき市のアパートと放射線量的には変わりはないのです。浪江町沿岸部は原発からわずか5キロ県内ですが、いわき市と線量は変わらないのです。

町の復興計画は6号線から東側、津波の被災地域までを含めたエリアが（復興計画が）の対象地域です。この6号線から左側が居住制限区域。特に浪江町は双葉、大熊よりも西側に広い町になっていて、霞がかった山の方まで浪江町です。山に近づけば近づく程、放射線量が高いのが浪江町の特徴です。

私はこの6号線の東側、「幾世橋（きよはし）地区」に最終的に住んでいました。私の妻の両親はあの山の奥に住んでいました。同じ浪江町です。私の家のケースで言うと、私の両親は帰還困難区域で私たちは避難指示解除準備区域になります。

こちら左側の「ローソン」。この店最近始まりました。ここに出来たとき私はとてもうれしかったです。避難区域の北の玄関口になります。

今日は南相馬の「道の駅」まで行くと言いましたが、先に提出しているご案内ルートが「南相馬市小高（おだか）」までとなっていたので、道の駅には行けません。小高で引き返します。ご了承ください。

●避難指示解除準備区域の南相馬市・小高地区中心部へ

南相馬市に今、入りました。皆さんは南相馬という言葉に馴染みがあると思いますが、私たちはそれ程馴染みがあるわけではありません。原町市と昔は呼んでいました。ここは小高町（おだかまち）だったのです。現在は南相馬市小高区です。

これから（旧）小高町の中心部まで行って、引き返します。

ここは実は浪江町沿岸部と同じように、線量は低いです。ただし福島第一原発と非常に近いところにありますから、避難区域になっています。現在除染が進められています。

この交差点を過ぎますと海が見えます。と言うことはここまで海拔が非常に低いです。小高町はこの6号線を超えて津波が押し寄せてきました。この先、富岡町のように津波の被災にあわれた建物が見られます。

浪江町も小高町も今年、試験的に田植えをして米を生産しました。浪江町のケースですと 50 ベクレル

以下、基準値以下です。基準値に照らし合わせれば食べられる線量です。賛否両論があると思いますが、現地の農家の方にしてみれば明るい話題です。

左手、太陽光パネルがたくさん並んでいます。これは震災後に設置されました。使っているかどうかは私にわかりません。住民の方が帰還されていないところで、あのようなものができるのはちょっと複雑な思いです。

これから小高町の中心部に行くのですが、小高町はとてもきれいなイルミネーションで有名です。最初は沿岸部の一部の方が方始めたのです。12月に入って夜行くと、それがまたみごとで。町の中心部でも行われるようになりました。今年も行われています。先週点灯式が行われ、子どもたちも参加していました。町の中心部は町が行いますが、各家庭でもそれぞれ工夫してライトアップしています。

私たちにとって、国道6号線は生活道路と言いましたが、仙台に向かうときは混みますから、海沿いの「浜街道」を使います。そちら側でイルミネーションが始まりました。現在は津波の影響で通るには難しいですが。

双葉町、大熊町に比べて小高町は広いですね。

それでも小高町で農業だけで食べていける人はほとんどいません。双葉郡全体でも同じです。兼業です。年配の方が先祖代々の土地でお米を作る。そして同居した若い人がほかに稼いでくるのです。

かなりきれいになりました。当時は瓦礫が散乱していましたが。

本日のご案内はこの小高地区までで、Uターンさせていただきます。

私は震災時に浪江町に住んでいましたから小高町がいちばん近い町でした。でも、震災後国道6号線が開通されるまで、小高町に行く機会はほとんどありませんでした。あんなに近かった町ですが、今避難しているいわきからは70キロほどあります。

この町の出身の子どもたち（双葉高校、小高工業高校、福島工専）は見るに見かねて、だれもやらないなら俺たちがやると、大学に進学せずに福島第一原発への就職を選択する場合も少なくありません。

ここ「山川食堂」の中華そば旨いですよ。どうして知っているかというと、双葉郡の人って南相馬市からいわき市は活動範囲なのです。たぶん東京の方とかは信じられないと思いますが、平日に遊びに行くときには片道50キロなどは当たり前。車社会なのですね。あまり町の中を歩いている人っていないのです。ですから東京に避難された人は体力的に疲れるって言うていましたね。歩く生活に慣れないと困るって。

●避難区域だが防御対策はおろそか

皆さん、不思議に思いませんか？　ここは避難区域なのです。住むことが許されていない地域なのに、除染されている方は防御服、防マスク、防手袋をしていませんね。発電所で働いていた私たちも思っていたことですが、温度も感じない、臭いもない、痛みもない、色もないので安全意識がおろそかになってしまいます。

本来、この地域で作業する方はマスクを義務付けられています。でも実際は装備を怠る人が多いです。そういった取り締まりがないのです。帰りたい人たちからすると悔しいですね。防御対策とらなくて済むなら、帰れるのではないかと。私も帰りたいと。

●賠償金について

少し賠償についてご説明します。帰還困難区域から避難されると数千万円の賠償を受けているということは事実なのです。けれども、皆さんよくご覧になってください。この地域に住んでいる方の家は大きいです。先祖代々から土地や家屋を受け継いで住んでいますから。賠償金額が大きいのは、それなりに失ったものが大きいからなのです。なぜかそれが誤解されてします。金額だけで判断されてしまう。

今も賠償格差とも言われていますが、広野町に住む方は2年半前に避難区域の解除になりました。補償も打ち切られています。そういう人たちと私たちのような避難生活をする者とは確かに、数千万円ほど賠償金額が違うのです。

問題は今日一日見て頂いた避難区域の設定というものが、あまり生活実態に即していないのではないかと。そこから始まってしまった。私たちだって一緒に賠償にしたいのです。もし、たくさんの賠償金をもらっていい生活をしているのだろう、と言っている人が皆さんの周りにいたら、私たち見てきました。「(被災者は) 失ったものが大きい。賠償金額に見合っていない」と伝えていたと思います。

誤解を生んでしまうかもしれませんが、津波自体の被害は宮城県や岩手県の沿岸部と比べると、双葉郡は少ないのです。ここは原発事故さえなければ、復旧は終わっています。

●帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域が混在する浪江町

右手に見えるのが「浪江町役場」です。どなた様でも入れます。役場の職員の方がすでに詰められています。浪江町の役場は本拠地を二本松市にありますが、住民が帰還することを前提に復興が進んでいますので、まずは役場職員の方から仕事をされています。

左側にある建物は結婚式場です。結婚式場は思い出の場所ですね。今は除染作業員の方々の拠点になっています。しょうがないですね。私たちの生活環境を取り戻すためにがんばってくださっているのですから。

今ここにスクリーニング場というものがあります。一時立ち入りで帰還困難区域に入った方が線量を測ります。実際にその作業をなさっている方は、関東から来ている東京電力の社員と地元の原発作業員の方々です。もともと点検の仕事をされていた原発作業員の方はお仕事がなくなってしまったので、このような仕事をサポートしています。

ここから見えるのは「前田川」です。前田川でもサケが獲れます。福島第一原発の地下水の問題が出ていますが、私は一度提案したことがあります。前田川と大熊川をつなぐ水路を作って、地下水を川から海に流せばいいと。そのくらい大がかりな取り組みをしないと、あの敷地の中で杭を打ってもなかなかうまくいかないと。

バスが止まっていますね。一時立ち入りするのに自分で車を運転できない方に、バスを出してくれます。高齢者の方はモノを取りに戻ることもたいへんです。帰還困難区域の方は月に一度しか入れません。朝9時から夕方4時の明るいうちまでです。トランシーバーを持たされ、時間になると呼び出されます。許可証を持って入ります。

たとえばいわきから浪江町へ一時立ち入りする場合、浪江の山奥からここへ来るまで時間がかかります。1～2時間ぐらいしか自宅にいられないときがあります。

このドライブイン、古めかしいですね。この古めかしさが売りだったのです。ある方が言いました。双葉郡は20年ぐらい何か遅れているな、と。むしろそれが、この地域のよさだったと私は思います。

●大熊町は工業団地でもある

あそこに「スーパーセンター」が見えますね。こちら本拠地は柏崎市にあるのです。柏崎原発（柏崎刈羽原発）のすぐそばにもものすごく大きなホームセンターがあります。店の進出もそういうことなのです。こちらにあることは、何となくわかりますね。そういうものなのです。

右手に見える大きな建物が「大熊町体育館」です。

大熊町は原発の町だけではなく、工業団地なのです。看板出ていますね。皆さんも知っているレインボー薬品。絶対に知っていますよ。花に栄養を与えるために植木鉢に挿す品のメーカーさんです。

浪江町の役場の方に教えて頂きましたが、町に人がいなくなり商店が閉鎖することによる経済的な損失は、年間500億だそうです。ということは、双葉郡全体では1年間で数千億円の損失が出ています。もう4年たちますから1兆円近くの損失です。ですからこの地域に何百億というお金をかけることは、数値的には無駄ではないのです。

●除染作業員の若年化も

除染作業員の方、女性の方もいらっしゃいます。あまり女性の方には入って欲しい気持ちはありません

ん。女性と男性とでは被ばく線量の限度が違います。女性の方が年間20ミリシーベルトと低いからです。

これから皆さんいわき市に戻られると、コンビニなどに入れば無料の求人フリーペーパーがあります。それをちょっと見てください。一般産業のお給料がこの地では20万円ぐらいです。年収で200万円台、ボーナスが入って300万円にいけば良いくらいです。その中で除染業というのはだいたい月35〜40万円です、未経験者でも。今この地域で働くという問題で、どうしてもこのことが無視できなくなっています。原発作業員の方が多く辞めた理由には、発電所で働くよりも町の除染作業のほうが収入がいいことがあります。原発に比べると安全でもありますよね。だから除染の作業をする方が多くなりました。

私、除染の作業の方の顔を見ながら行動していますと、非常に若返り化しています。

もともと福島県というのは就職の厳しい地方ですから……。お金で除染の仕事を選ぶ人もいますが、聞いてみるとこの地域をよくしたいから選んでいる、という方もいらっしゃいます。ただ問題は安全性ですね。

右手に見えるのは変電所です。こちらは原発の電気を東京に送るためのものです。変電、電圧を下げて送ります。

福島第一原発は津波によって自前の電気が使えなくなっ、東京から本来逆に電気をもらえませんが、変電所が倒壊したためにダメになってしまった。だから発電所だから安全性だけで、原子力発電所を評価するのは間違いです。福島第二原発の場合は奇跡的に残った1本が活用できたのです。

●復興作業で車が増加、事故も増加

この高速道路（常磐高速道）は制限速度70キロですが、100キロぐらいであおられたりすることもあります。皆さん非常に長時間運転で疲れて運転していまから、そんなことが相まって事故になるのです。中央分離帯もなく乗り越えての事故が起きています。いわき市では実際に震災後、事故が多すぎて非常事態宣言が出ています。双葉郡も震災後の方が前よりも事故が多いです。このレベルの道路で正面衝突が起きたら通行できませんから、たとえばシビアな廃炉作業の場合はそれによって大きなトラブルが起きます。必要な人材が来ないといったかたちで。

新種のヤモリが山にいたようですね。これだけ山が深いとまだまだ見つかっていない生物がいますよ。山の間に田んぼがあるのが広野町の特徴です。田んぼがいっぱいあっても専業農家は一軒だけです。ここから広野町、最先端の町が見えますから、皆さん、この立地条件で何ができるか考えてください。

ここでオリーブを栽培しています。オリーブの実以外で何かできないかと、オリーブの木を灰にして釉薬を作り、新しい焼き物を作る試みを始めました。

原発作業員の方たちへのサービスが結果的に町を潤すことはわかっていますが、避難されている方の

生活水準は一般水準をはるかに下回っています。だから、避難している方を差し置いて作業員の方ばかりを優遇することは、町として選択できません。だから第三者がやるしかないのです。

広野町は他県のホテル会社が既に入っています。それでほんとうはいいのです。そこに経済が生まれて、人が増えれば町も潤う。頭じゃあわかっていても、避難している者としては原発事故で辛い状況にいるので、原発で働く人をあまり良い目で見ることが出来ないという現状があります。それではいけないのではないか、と私は活動していますが。

(この後、四倉（よつくら）パーキングエリアから湯の岳山荘へ)



湯の岳山荘前にて

テーブル起こし：藤井みゆき